

# 第2学年 算数科学習指導案

3組 計24人 (男子12人 女子12人)

指導者 藤迫 芳章

## 1 単元 かけ算 (3)

### 2 単元の目標

- 乗法九九の表のきまりや乗法についての交換法則、分配法則につながる性質を理解できる。  
【知識及び技能】
- 乗法九九の表のよさに気付き、乗法の性質を見いだすことができる。また、被乗数が12程度の乗法について、計算の仕方を考えることができる。  
【思考力、判断力、表現力等】
- 乗法の性質を調べ、乗法や乗法九九のよさを日常生活に生かそうとしている。  
【学びに向かう力、人間性等】

### 3 単元でめざす子供の姿

主体性	乗法九九の表のきまりや乗法についての交換法則、分配法則につながる性質について「基盤となる見方・考え方」を働かせて、自ら問題を見だし、解決方法の見通しをもって粘り強く取り組もうとする。
協働性	他者との「学び合い」を通して、乗法九九の表のきまりや乗法についての交換法則、分配法則につながる性質について、「基盤となる見方・考え方」を働かせて言葉、図、数、式などに関連付けながら協力して問題をよりよく解決しようとする。
創造性	乗法九九や乗法に関して乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増えるという性質などの既習の知識・技能と関連付けながら、思考・判断・表現して交換法則や分配法則を基に深く理解したり、状況に応じて最適な解決方法や新しい考えを見いだしたりしようとする。

### 4 単元について

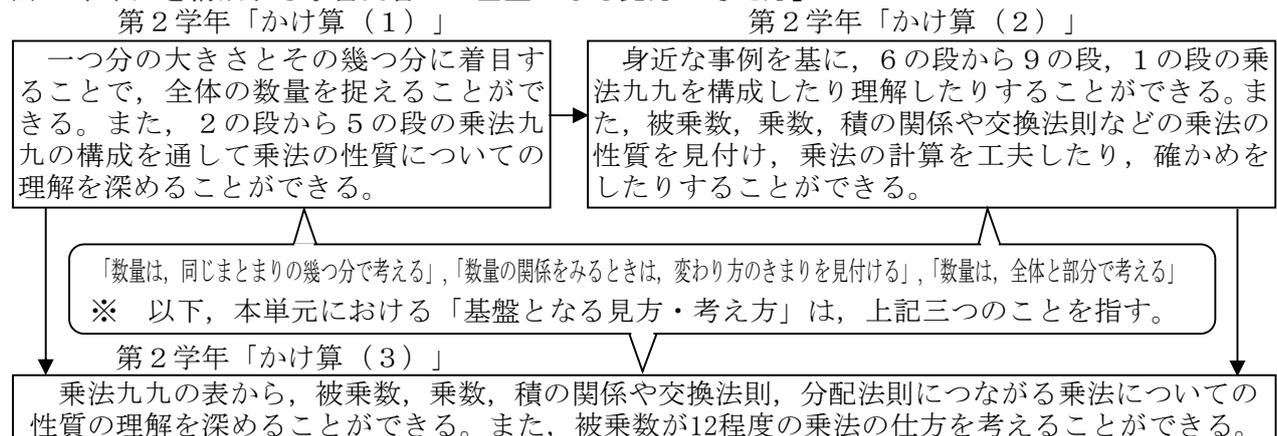
#### (1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、一つ分の大きさが決まっているときに、その幾つ分かに当たる大きさを求める演算が乗法であることを理解し、問題場面を式で表すことができるようになってきている。また、1の段から9の段の乗法九九を構成し、乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増えるという性質や2の段と3の段の和が5の段になるというようなきまりを見付けることができるようになってきている。

そこで本単元では、「数量は、同じまとまりの幾つ分で考える」や「数量の関係をみるときは、変わり方のきまりを見付ける」、「数量は、全体と部分で考える」という「基盤となる見方・考え方」を働かせながら、数量の関係に着目し、乗法に関して成り立つ性質を見いだしたり活用したりすることができるようにする。具体的には、乗法九九の表を構成したり、観察したりすることで、乗法九九の表の仕組みや乗法についての交換法則を理解できるようにする。また、被乗数が12程度の乗法の仕方を交換法則で考えたり分配法則を基にして考えたりすることで、乗法九九を活用して説明できるようにする。さらに、19人を2人掛けと3人掛けに分ける座席の取り方について乗法九九を活用して考えることで、乗法のよさに気付いたり学習や生活の中で活用したりすることができるようにする。

「数量は、同じまとまりの幾つ分で考える」や「数量の関係をみるときは、変わり方のきまりを見付ける」、「数量は、全体と部分で考える」という「基盤となる見方・考え方」や数学的活動を通して育成された資質・能力は、第3学年においての2位数や3位数などの乗法や除法の学習につながっていく。

#### (2) 本単元を構成する学習内容と「基盤となる見方・考え方」



一つ分の大きさとその幾つ分に着目することで、全体の数量を捉えることができる。また、2の段から5の段の乗法九九の構成を通して乗法の性質についての理解を深めることができる。

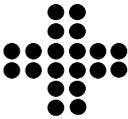
身近な事例を基に、6の段から9の段、1の段の乗法九九を構成したり理解したりすることができる。また、被乗数、乗数、積の関係や交換法則などの乗法の性質を見付け、乗法の計算を工夫したり、確かめをしたりすることができる。

「数量は、同じまとまりの幾つ分で考える」、「数量の関係をみるときは、変わり方のきまりを見付ける」、「数量は、全体と部分で考える」

乗法九九の表から、被乗数、乗数、積の関係や交換法則、分配法則につながる乗法についての性質の理解を深めることができる。また、被乗数が12程度の乗法の仕方を考えることができる。

(3) 子供の実態（調査日 平成 30 年 8 月 21 日 調査人数 24 人）

本単元の内容に関わる子供の実態については以下のとおりである。（数字は人数）

【調査①】 次の計算をしましょう。（知識及び技能）											
ア $6 + 6 + 6 + 6$ (23)	イ $6 + 7 + 3$ (24)	ウ $5 + 2 + 5 + 2$ (24)									
【調査②】 次の●は、どのように分けますか。囲みましょう。（まとめり、全体・部分で見える見方）											
ア 	イ 	ウ 									
6のまとめり(10) 4のまとめり(6) 2のまとめり(4) その他 (4)	6のまとめり(7) 3のまとめり(7) 4のまとめり(6) 2のまとめり(4)	4のまとめり(18) 2のまとめり(2) 5のまとめり(2) 10のまとめり(2)									
【調査③】 右の表を見て、数のきまりを見付けましょう。（数の性質の理解）											
<ul style="list-style-type: none"> <li>右に進むと1ずつ増える。(14)</li> <li>下に進むと3ずつ増える。(11)</li> <li>右斜め下に進むと4ずつ増える。(8)</li> <li>左斜め下に進むと2ずつ増える。(7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左に進むと1ずつ減る。(12)</li> <li>上に進むと3ずつ減る。(10)</li> <li>無回答(8)</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	2	3									
4	5	6									
7	8	9									
※複数回答											

以上の実態から、本学級の子供は、加法の計算やまとめりで見ることについては十分理解できているものの、数のきまりを見付けることについては課題があると考えられる。

そこで、本単元の指導に当たって以下のような手立てを行うこととする。

5 指導に当たって

主体的・対話的で深い学びを実現する教師の手立て【研究内容3】

(1) 主体的な学びを実現する教師の手立て

乗法九九の表のきまりを見付ける学習において、3の段と4の段の和が7の段になる、乗数と被乗数を入れ替えた乗法の積が同じになるなどの乗法九九における数量の関係に着目し、乗法九九の表についてのきまりを見付けるという見通しをもつことで、主体的に問題解決に取り組むことができるようにする。

被乗数が12程度の乗法の学習において、終末段階の振り返る過程では、「 $12 \times 3$ についての『学び合い』でよかったことは何かな。」と問い掛けることで、交換法則や分配法則を基にして考えている友達の考えのよさや、新たな考えを見付ける楽しさなどを実感できるようにする。さらに、「12を9と3に分けるという考え方によく気付きましたね。」などと価値付けることで、自信を深め、主体的に学ぶ意欲をもつことができるようにする。

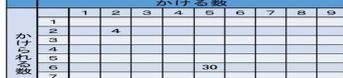
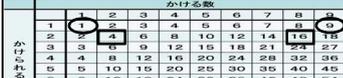
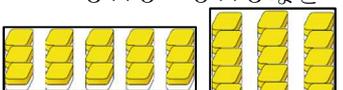
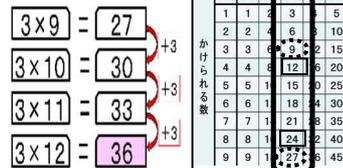
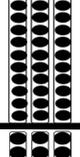
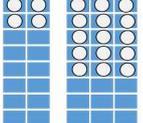
(2) 対話的な学びを実現する教師の手立て

考えが異なる子供同士によるペアで「学び合い」をすることで、乗法九九の表の新たなきまりや $12 \times 3$ についての新たな分け方などに気付くことができるようにする。そして、「学び合い」によって気付いた新たな考えをノートに青鉛筆で書き加えることで、思考の変容が可視化され、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 深い学びを実現する教師の手立て

「乗数が1増えると被乗数の数だけ積が増える」という性質など、プレゼンテーションソフトや算数コーナーを基に既習の内容を振り返りながら乗法九九の表を構成することで、交換法則が成り立つときの積の並びの規則性や分配法則につながるきまりを見付けることができるようにする。

被乗数が12程度の乗法の仕方を考える学習において、「この図から式が見えるかな。」と問い掛けることで、「基盤となる見方・考え方」を働かせながらアレイ図と式を関連付けて問題解決ができるようにする。そして、「今日の考え方は、どんな場面で使えそうかな。」などと問い掛け、教室に掲示してある絵の枚数や靴箱の数などの実生活における活用場面について考えることで、実生活でも乗法九九を活用する意欲を高めることができるようにする。

過程	主な学習活動	学習問題 まとめ	教師の指導 ◇ICT活用
つかむ・見通す②	1 積が4, 16, 30の乗法九九について考え、乗法九九の表を完成する。 	① 九九の表を作るには、どうすればよいのかな。 各段の答えを順序よく書いていくと九九の表ができるね。	○ 積が4, 16, 30の乗法九九について話し合うことで、被乗数と乗数の関係に着目して乗法の九九の表を作るという見通しもつことができるようにする。【主】 乗法九九の表の仕組みを理解することができたか。【知・技：ワークシート、発言】
	2 乗法九九の表から、様々なきまりや特徴を考える。 	② 九九の表には、どんな秘密があるのかな。 四つの数を足すと100になるなど、九九の表にはいろいろな秘密があるね。	○ 被乗数、乗数、積の関係を確かめることで、見通しをもって様々なきまりや特徴を考えることができる。【主】 乗法九九の表のよさに気付き、乗法九九の様々なきまりや特徴を考えることができたか。【思・判・表：ワークシート、発言】
	3 かけられる数が3(3の段)の答えと、かける数が3の答えを比べ、答えが同じになる理由を考える。(交換法則) ・ $3 \times 5 = 5 \times 3$ など 	③ 式が違うのに答えが同じなのはどうしてかな。 まとまりを縦に見たり、横に見たりしても、全部の数は変わらないから、答えは同じだね。	○ ブロックを操作したり、アレイ図と式を関連付けたりすることで、被乗数と乗数を入れかえても積が同じになることに気付くことができるようにする。【主】 被乗数と乗数に着目して、式や図を関連付けて表現し、答えが同じになる理由を考えることができたか。【思・判・表：ワークシート、発言】
高める④	4 乗法の性質を使って、 $12 \times 3$ の計算の仕方を考える。(本時) 	④ 9の段を超えるかけ算は、どうすればよいのかな。 たし算でできるね。九九にかけられる数を足していけばよいね。12を分けて計算すればよいね。	○ 式や乗法九九の表と関連付けて「学び合い」をすることで、交換法則や乗法に成り立つ性質の理解を深めることができるようにする。【対】 被乗数が12程度の乗法について、乗法に関して成り立つ性質を基に考え、説明することができたか。【思・判・表：ノート、ワークシート、発言】
	5 分配法則を基に考え、様々な $12 \times 3$ の計算の仕方を考える。 $10 \times 3 = 30$ $2 \times 3 = 6$ $30 + 6 = 36$ など 	⑤ 12をどのように分けると計算できるかな。 12を10と2などに分けると計算できるね。	○ 違う分け方で考えたペアでの「学び合い」をすることで、乗法九九を超えたかけ算も分配法則を基に考えればよいことに気付くようにする。【対】 被乗数が12程度の乗法について、分配法則を基に考え、その理由を説明できたか。【思・判・表：ノート、発言、操作活動】
	6 19人で旅行に行くときの、座席の取り方を考え、説明する。 $2 \times 2 = 4$ $3 \times 5 = 15$ $4 + 15 = 19$ 	⑥ ぴったり座るには、どのように分ければよいのかな。 5を2と3に分けて、2の段と3の段で考えるとよいね。	○ 実生活につながる問題を提示し、乗法について成り立つ性質を活用して問題を解くことで、乗法九九の有用性・汎用性を自覚できるようにする。【深】 乗法九九の積の基に考え、理由を説明できたか。【思・判・表：ワークシート、発言】
まとめる②	7 「かけ算ゲーム①おはじきとり」、「かけ算ゲーム②かけ算ビンゴ」のルールを理解し、ゲームに取り組む。	⑦ かけ算ビンゴで勝つためには、どうすればよいかな。 答えが12や24など、かけ算の式がいくつもあるかけ算の答えを入れるとビンゴしやすくなるね。	◇ プレゼンテーションソフトを使って図を動かしながらゲームの内容を提示することで、ルールの理解を深め、見通しをもって活動できるようにする。【主】 乗法九九を活用して、進んでゲームをすることができたか。【主体的に学習に取り組む態度：ワークシート、発言】
	8 既習事項の理解を深める。 ・ 力だめしの問題	⑧ いろいろな問題に挑戦しよう。	○ 乗法の九九表の仕組みや交換法則、分配法則に基づく考えを振り返ることで、他教科等や実生活で乗法九九を活用しようとする意欲を高める。【深】

7 本時 ( 4 / 8 )

(1) 目標 被乗数が12程度の乗法について、乗法九九を活用して考え、その理由を説明できる。

(2) 展開  教師の言葉掛け  子供の反応  重点評価項目 ☆ICT活用上の留意点

過程	主な学習活動	教師の指導																																																												
つかむ・見通す(7)	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>3つの皿の上に、それぞれ栗が12個ずつのっています。全部で何個でしょうか。</p> <p>どんな式になるかな。</p> <p>12のまとまりが三つ分だから、式は<math>12 \times 3</math>で表せるね。 でも、かけ算九九に12の段はないよ。</p> <p>2 学習問題を確認する。</p> <p>9の段を超えるかけ算は、どうすればよいのかな。</p> <p>3 問題解決の見通しをもつ。</p> <p>たし算を使うと求めることができそうだね。 かけられる数とかける数を入れ替えて3ずつ足していくとできそうだね。 九九の表のかける数が3の列を見たらできそうだよ。</p>	<p>☆ 栗が皿の上ののっている場面を提示し、12のまとまりに気付くことで、本時の学習課題を明確につかめるようにする。</p> <p>○ <math>12 \times 3</math>と乗法九九との違いについて考えることで、本時の学習課題の問題意識を高め、被乗数が12程度の乗法の計算の仕方について考えることができるようにする。【主】</p> <p>○ 基盤ボードや算数コーナーで、前時で学習した交換法則について振り返り、自分の考えをノートに書くことで、被乗数と乗数を入れ替えて3ずつ足せばよいことなどに気付き、問題解決への見通しをもつことができるようにする。【主】</p>																																																												
調べる(5)	<p>4 問題解決に取り組む。</p> <p>12×3は12のまとまりが三つ分だから、12を3回足すことと同じだね。12+12+12をすると、答えは36になるね。</p> <p>3×9 = 27 3×10 = 30 3×11 = 33 3×12 = 36</p> <p>かけられる数</p> <table border="1" data-bbox="750 739 941 918"> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td><td>20</td></tr> <tr><td>5</td><td>5</td><td>10</td><td>15</td><td>20</td><td>25</td></tr> <tr><td>6</td><td>6</td><td>12</td><td>18</td><td>24</td><td>30</td></tr> <tr><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>21</td><td>28</td><td>35</td></tr> <tr><td>8</td><td>8</td><td>16</td><td>24</td><td>32</td><td>40</td></tr> <tr><td>9</td><td>9</td><td>18</td><td>27</td><td>36</td><td>45</td></tr> </table>		1	2	3	4	5	1	1	2	3	4	5	2	2	4	6	8	10	3	3	6	9	12	15	4	4	8	12	16	20	5	5	10	15	20	25	6	6	12	18	24	30	7	7	14	21	28	35	8	8	16	24	32	40	9	9	18	27	36	45	<p>○ 問題解決の際、式に矢印や数などを書き込んだり、言葉に置き換えたりすることで、考えを明確にできるようにする。</p> <p>○ 違う考えの子供同士でペアでの「学び合い」をすることで、新たな考えに気付くことができるようにする。さらに、友達の考えのよかったところをノートに青鉛筆で書き加えることで、思考の変容を可視化できるようにする。【対】</p>
	1	2	3	4	5																																																									
1	1	2	3	4	5																																																									
2	2	4	6	8	10																																																									
3	3	6	9	12	15																																																									
4	4	8	12	16	20																																																									
5	5	10	15	20	25																																																									
6	6	12	18	24	30																																																									
7	7	14	21	28	35																																																									
8	8	16	24	32	40																																																									
9	9	18	27	36	45																																																									
高め合う(20)	<p>5 ペアでの「学び合い」を行う。</p> <p>12×3をどのように考えたのかな。</p> <p>12のまとまりの三つ分で、12+12+12=36になったよ。 かけられる数とかける数を入れ替えて、3×9の答えに3ずつ足したから3×12=36になったよ。 九九の表から、3×3=9と9×3=27を足すと、36だから、12×3=36になるよ。</p> <p>6 全体での「学び合い」を行う。</p> <p>なぜ12×3が九九の表で見えるのかな。</p> <p>12×3だから、かける数が3の列を見ればよいね。12は9と3に分けることができるから、9×3=27と3×3=9を足すと、答えは36になるよ。 なるほど。「5の段の答えは、2の段と3の段の答えを足す」と同じ考えだね。 12は4と8にも分けることができるから、4×3=12と8×3=24で計算できるね。つまり、12を二つに分けて足せばできるね。</p>	<p>○ 「なぜ12×3が九九の表で見えるのかな。」と問い掛けることで、乗法の意味と乗法九九の表とを関連付けて考え、「被乗数と乗数の順序を入れ替えて計算しても積は同じ」という乗法について成り立つ性質の理解を確かなものにする。【対・深】</p> <p>◆ 被乗数が12程度のかけ算について、交換法則と乗法について成り立つ性質を活用して考えているか。 【思考・判断・表現：ノート、ワークシート、発言】</p>																																																												
まとめる(13)	<p>7 本時の学習についてまとめる。</p> <p>たし算でできるね。九九にかけられる数を足していくとよいね。12を分けて計算してもよいね。</p> <p>8 適用問題に挑戦する。</p> <p>13枚のカードが4つあります。全部で何枚かな。</p> <p>4×13として、4×9に4ずつ足していくと52になるね。 13を4と9に分けると、4×4+9×4(=52)になるね。</p> <p>9 本時の学習について振り返り、学びを自覚する。</p> <p>今日の学習を振り返って、よかったことは何かな。</p> <p>「全体と部分」で考えると、九九の表でも計算できることが気付いてよかったよ。 友達と「学び合い」をして、かけられる数を分けて計算するという新しい考えに気付くことができよかったよ。</p> <p>12×3の分け方は他にもあるのかな。</p> <p>12を7と5にも分けることができそうだよ。</p>	<p>○ 「数量は、全体と部分で考える」という「基盤となる見方・考え方」を働かせて考えることで、「12×3の12を乗法九九の表を基に分けることができる。」ということに気付くことができるようにする。【対・深】</p> <p>○ 日常生活を想起しやすい適用問題を提示し、「今日の学習で考えたことは使えるかな。」と問い掛けることで、本時の学習を振り返りながら解き、被乗数が12程度の乗法についての理解を深めることができるようにする。【主・深】</p> <p>○ 「なぜ9を超える数のかけ算ができるようになったのかな。」と問い掛けることで、被乗数が12程度の乗法の問題を解決できた理由や考えが変容した理由を考え、交換法則や分配法則に基づいて考えるよさや自己の成長に気付くことができるようにする。【主】</p> <p>○ 「他の分け方もあるのかな。」と問い掛けることで、分配法則を基にした色々な分け方に気付き、次時の学習につなぐことができるようにする。【深】</p>																																																												

第2学年「かけ算(3)」本時(4/8)における授業構想シート

本時で期待される子供の姿

主体性	12×3の計算方法について、既習事項である乗法についての交換法則を想起することで、「数量の関係性をみるときは、変わり方のきまりを見付ける」などの「基盤となる見方・考え方」を働かせて問題解決に取り組もうとする。
協働性	12×3の計算方法について、友達と「学び合い」を行うことで、互いの考えのよさを尊重したり、式や乗法九九の表などに関連付けたりしながら考えを広げたり深めたりしようとする。
創造性	12×3の計算方法について、式や乗法九九の表と関連付けて考え、よりよい解決方法を見いだすことで、算数の楽しさやよさに気付こうとする。

本時で育成を目指す資質・能力

被乗数が12程度のかげ算について、乗法九九を活用して考え、その理由を説明できる。【思考・判断・表現】

本時で働かせたい「基盤となる見方・考え方」

見方(～に着目して)

考え方(思考の枠組み・方法)

12という数や被乗数、乗数と積の関係に着目して、「数量の関係性をみるときは、変わり方のきまりを見付ける」や「数量は、全体と部分で考える」、「数量は、まとまりの幾つ分で考える。」という「基盤となる見方・考え方」を働かせて、被乗数と乗数を交換して考えたり、被乗数を二つ以上に分けて考えたりすることができるようにする。

「基盤となる見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

問題解決で働かせる「基盤となる見方・考え方」

 <p>12×3の計算をどのようにして考えたのかな。</p>	<p>12×3は、12のまとまりが三つ分という意味だから、12+12+12(=36)で計算できるよ。</p>	<p>12のまとまりに着目して、その三つ分を足せばよいということを考えている。</p>																																																																																
 <p>かけられる数とかける数を入れ替えて、3×9の答えに3ずつ足していくと、3×12=36になったよ。</p>	<table border="1" data-bbox="670 918 957 1030"> <tr><td>3×9</td><td>=</td><td>27</td><td rowspan="4">+3</td></tr> <tr><td>3×10</td><td>=</td><td>30</td></tr> <tr><td>3×11</td><td>=</td><td>33</td></tr> <tr><td>3×12</td><td>=</td><td>36</td></tr> </table>	3×9	=	27	+3	3×10	=	30	3×11	=	33	3×12	=	36	<p>被乗数、乗数と積の関係に着目して、乗数が1増えると積は3ずつ増えるという性質を基に筋道を立てて考えている。</p>																																																																			
3×9	=	27	+3																																																																															
3×10	=	30																																																																																
3×11	=	33																																																																																
3×12	=	36																																																																																
 <p>九九の表を見ると、3×3=9と9×3=27だから、9+27をして、12×3=36になるね。</p>	<p>なぜ九九の表の3×3=9と9×3=27を足すと、12×3=36になるのかな。</p>	<p>被乗数、乗数と積の関係に着目して、乗法九九の表と関連付けて考えている。</p>																																																																																
 <p>まとまりの幾つ分で考えたり、かける順序を入れ替えて考えたりして計算したんだね。なぜ12×3が九九の表で見えるかな。</p>	<p>12×3のかける数は3だから、かける数の列を見ると、答えは3ずつ増えているね。</p>	<p>被乗数、乗数と積の関係に着目して、「かける順序を入れ替えても積は変わらない」ということを考えている。</p>																																																																																
 <p>かけ算は、「かける数が1増えるとかけられる数だけ答えは増える」だったけど、どうしてかける数が変わらないのに、答えは3ずつ増えるのかな。</p>	<p>かける順序を入れ替えて計算しても答えは同じだからだよ。</p>	<p>被乗数、乗数と積の関係に着目して、「5の段を2の段と3の段に分けるに着目して、「全体と部分」で考えている。</p>																																																																																
 <p>九九の表でもかける順序を入れ替えても答えは同じなんだね。なぜ12を二つに分けてもできるのかな。</p>	<table border="1" data-bbox="95 1612 430 1836"> <tr><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">かける数</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td rowspan="9">かけられる数</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>15</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>5</td><td>10</td><td>15</td><td>20</td><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>6</td><td>12</td><td>18</td><td>24</td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>21</td><td>28</td><td>35</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>8</td><td>16</td><td>24</td><td>32</td><td>40</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>9</td><td>18</td><td>27</td><td>36</td><td>45</td><td></td></tr> </table> <p>「5の段の答えは、2の段と3段の答えを足す」の考えと同じだからだよ。</p> <p>そうだね。12を3と9に分けると、3×3=9と9×3=27だから、答えは36になるよ。</p>				かける数								1	2	3	4	5	かけられる数	1	1	2	3	4	5		2	2	4	6	8	10		3	3	6	9	12	15		4	4	8	12	16	20		5	5	10	15	20	25		6	6	12	18	24	30		7	7	14	21	28	35		8	8	16	24	32	40		9	9	18	27	36	45		<p>12を分けるに着目して、「全体と部分」で考えている。</p>
			かける数																																																																															
			1	2	3	4	5																																																																											
かけられる数	1	1	2	3	4	5																																																																												
	2	2	4	6	8	10																																																																												
	3	3	6	9	12	15																																																																												
	4	4	8	12	16	20																																																																												
	5	5	10	15	20	25																																																																												
	6	6	12	18	24	30																																																																												
	7	7	14	21	28	35																																																																												
	8	8	16	24	32	40																																																																												
	9	9	18	27	36	45																																																																												
 <p>12を4と8に分けると、4×3=12と8×3=24だから、答えは36で同じだね。</p>	<p>なるほど。12を二つに分けて考えればよいことが分かったよ。</p>	<p>12を分けるに着目して、「全体と部分」で考えている。</p>																																																																																

振り返りに関して期待される子供の発言や記述

- 九九を超えるかけ算は、かける順序を入れ替えてかけられる数を足せばよいということが分かったよ。
- 12×3の12を分けるというのは、「全体と部分」で考えればよいということに気付くことができたよ。